

**実践キャリア・アップ戦略
カーボンマネジャー 第14回WG**

平成26年7月7日

<資料の構成>

1. 前回（第13回WG）での主な議論
2. 前回WG以降の取組状況
3. 今後の取組案
 - （1）レベル設計について
 - （2）普及啓発について
 - （3）名称について
4. スケジュール案

1. 前回（第13回）WGでの主な議論

対象とする分野について

- 省エネや温室効果ガス削減だけでなく環境・エネルギー分野全般を広く網羅していく。
- 近年、世間で関心の高い再生可能エネルギー、スマートコミュニティ、HEMS・BEMSといった分野を取り込むことで制度を一層うまくアピールしていく必要がある。

ニーズ・普及啓発について

- 制度のニーズがどこにあるのかという点について、引き続き見極めていく必要がある。
- 制度をもっと活用してもらえるよう、経済界と相談していく必要がある。
- 客観的なデータを活用し、普及啓発を進めていく必要がある。

レベル設計について

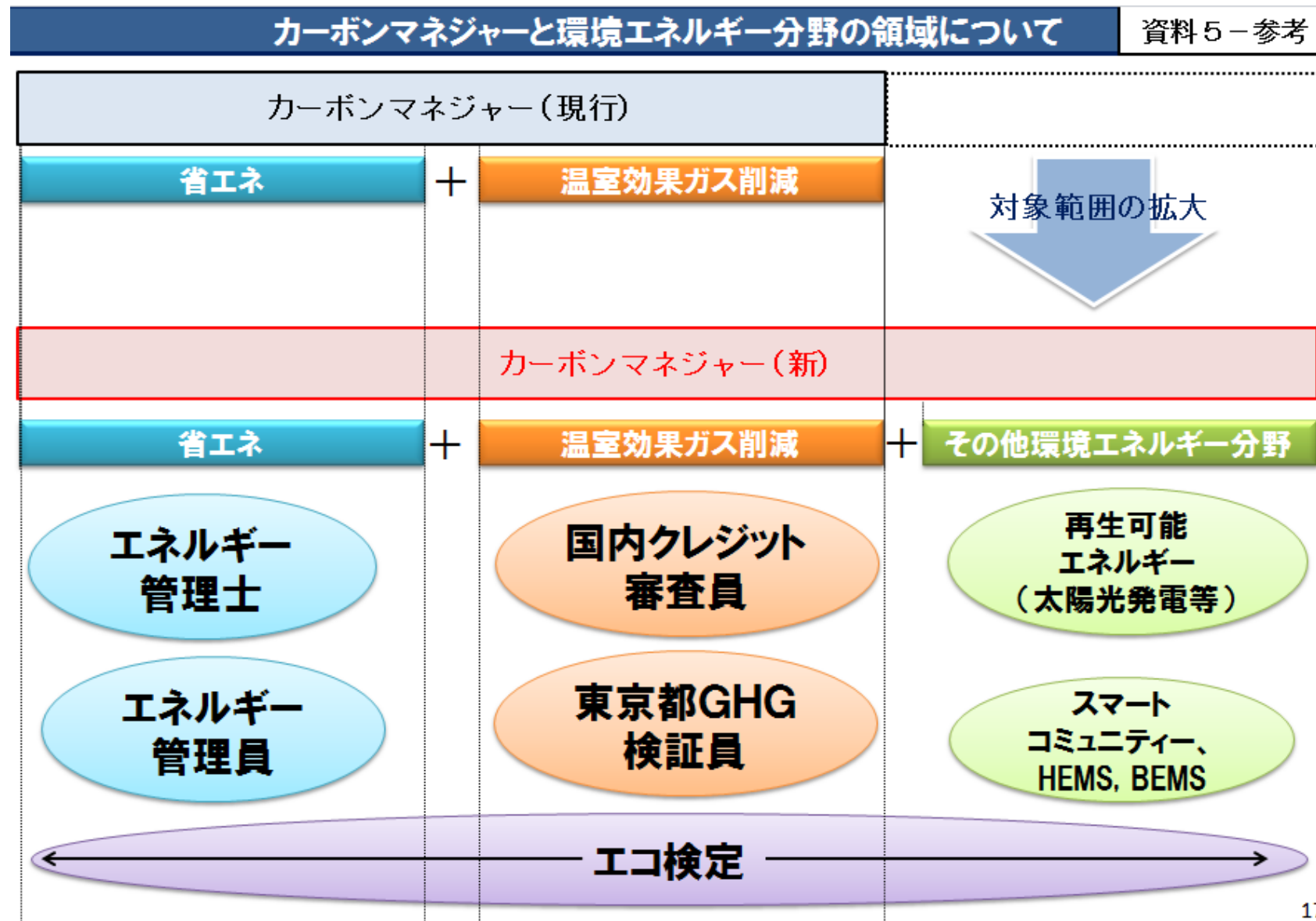
- 「わかる」の認定における研修受講義務を外して、制度の運用を考え直していく。
- 併せて、既存の関連資格を取得していることを以って「わかる」を認定する、といった連携を検討していく。（ただし、要件を緩めるのではなく、運用の弾力化という観点で検討する）
- レベル1を短期間に多く認定していく形にすることが喫緊の課題であり、検討を進める。

その他

- 制度名称の変更について、長期的な視点も踏まえつつ、検討していく必要がある。

1. 前回（第13回）WGでの主な議論

(参考) 前回WG資料(対象分野について)



2. 前回WG以降の取組状況

◆ 関連資格との連携・研修義務の見直しについての検討・準備

- 主にレベル1について、既存資格との連携の可能性・妥当性を検討
- 研修義務を外した運用について、レベル2は、従来は研修の中で実施する演習を通じ「できる」を認定していたため、研修義務を外すことに伴い、試験の中に演習課題を盛り込むことで、「わかる」「できる」の両方を確認することができるよう、問題を改修中。（改修後、研修義務を外した運用を開始）

◆ 普及啓発アドバイザーボードの立ち上げ

- 運営委員会の下に設置し、広報やマーケティングの分野で高い知見を持つ方々に委員を委嘱。
 - 【座長】金谷年展（東京工業大学ソリューション研究機構特任教授，運営委員会委員長）
 - 伊藤健二（慶應大学大学院政策・メディア研究科特任准教授，WG委員）
 - 岩間芳仁（日本経済団体連合会環境本部長，WG委員）
 - 野村秀之（博報堂DYホールディングスイノベーション推進室イノベーション推進グループ グループマネージャー）
 - 松本大吾（千葉商科大学サービス創造学部専任講師）
 - 三井早苗（パソナマーケティングエコ・コシェルジュエパートナー本部 eco推進担当部長）
- 平成26年5月29日に第1回を開催。委員からの主な意見は以下のとおり。
 - <制度の在り方について>
 - 分かりやすい制度にすべき。
 - 制度の目的・対象・メリットについて明確にアピールすべき。
 - <普及啓発手段・方法について>
 - 明瞭でキャッチーなネーミングにすべき。その際、検索頻度の高いワードの分析が必要。
 - （環境エネルギー分野の資格等を持つ）個人のメールアドレスを把握し、ニーズ調査、アピール等を行うべき。
 - Webを有効的に活用すべき（告知、ニーズ調査、コミュニティ形成、クイズでの学習等）
 - 日経などのメディアの活用、ニュースリリースの発行等を行うべき。
 - 「カーボンマネジャーは企業価値を高める」という構図を示すべき。
 - カーボンマネジャーで働く事例・メリットやカーボンマネジャーを抱える企業の紹介、また、そうした事例に関する対談形式での広報等を行うべき。

◆ 企業への追加ヒアリングの実施

- ニーズ調査のための企業ヒアリングは、昨年9月から本年2月にかけて行った。
- 今後の具体的な制度改善の検討に向けて、現場のニーズを把握するため企業への更なるヒアリングを実施（主な声は後述）

3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

(参考) **現行の**レベル設計(研修受講義務がない形)

わかる		できる
(当面は実施しない)	Lv.5-7	(当面は実施しない)
試験により認定	Lv.4	実務経験の事例 2件以上で評価・認定
試験により認定	Lv.3	実務経験の事例 1件で評価・認定
試験により認定	Lv.2	試験中の演習課題 により認定
試験により認定	Lv.1	(なし)

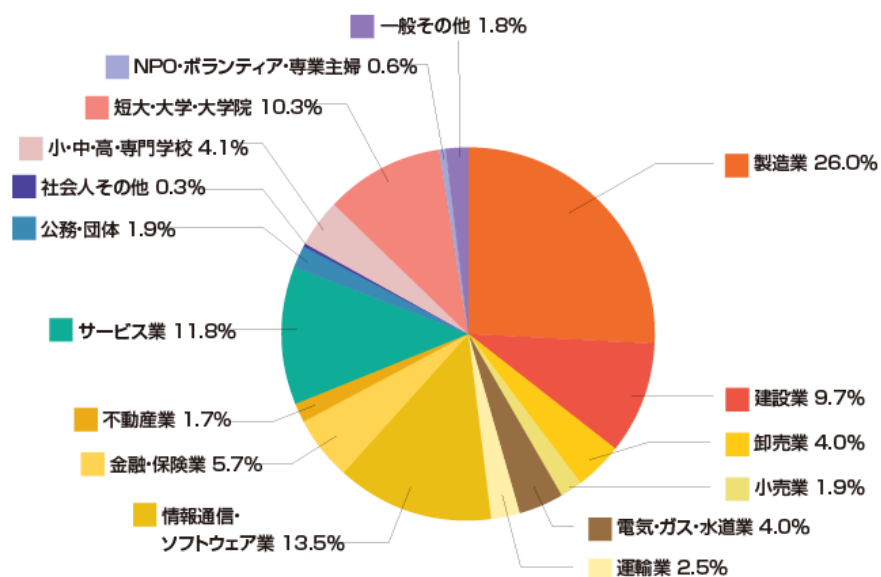
3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

レベル1

できるだけ既存の資格との関係付けを図っていく観点から、eco検定合格者を、本人からの申請に基づき、カーボンマネジャーレベル1に認定する。

eco検定の概要

- 東京商工会議所が実施
- 2006年の試験開始以来、累計33万人以上が受験
- 2013年度は、28,663人が受験して17,172人が合格（合格率59.9%）
- 受験者の約8割が社会人
- 多くの企業で、社員教育としてeco検定を活用。



2013年度受験者業種内訳
出典:eco検定HP

3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

eco検定の概要

- 出題範囲は広範で、eco検定において問われる知識の分野は、カーボンマネジャーのレベル1の分野を、概ね包含している。(以下は出題事項の抜粋)
 - ✓ 地球の基礎知識(大気・水・森林・土壌の役割、生物の進化、生態系 他)
 - ✓ いま地球で起きていること(人口、経済、食料、資源(鉱物)、貧困 他)
 - ✓ 地球温暖化エネルギー(変遷と現状、再生可能エネルギー、省エネルギー)
 - ✓ 生物多様性・自然共生社会
 - ✓ 循環型社会(廃棄物処理、3R)
 - ✓ 地球環境問題
 - ✓ 地域環境問題(典型7公害、交通、ヒートアイランド 他)
 - ✓ 化学物質のリスクとリスク評価
 - ✓ 震災関連・放射性物質
 - ✓ パブリックセクターの役割・取組み(国際社会、国、地方)
 - ✓ 企業の環境への取組み(CSR、環境マネジメントシステム、製品の環境配慮 他)
 - ✓ 個人の行動
 - ✓ NPO、NGO、主体を超えた連携

3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

eco検定の概要

- 難易度は概ね、カーボンマネジャーレベル1と同様。

非公表
(カーボンマネジャーレベル1及びeco検定の問題例が掲載されている為)

3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

今後の調整

- 本WGの後、東京商工会議所と具体的な調整を開始する。
- eco検定合格者のレベル1 認定料は、基本的に無料とする方向で検討する。

【今後の具体的な作業（例）】

- 2014年冬の試験（受験日：12月14日）の受験者に対して、eco検定に合格すればカーボンマネジャーレベル1として認定可能である旨を周知する。
- 合格者に対しても、成績票の発送（＝合否連絡）時に再度周知し、併せて、更なるステップアップとしてレベル2がある旨を知らせていく。
- 2014年夏の試験（既に申し込み終了）の合格者に対しても、申請すればレベル1認定が可能であることを周知。（遡及して認定するのは2014年の合格者までとする予定）

※ 現行のレベル1の試験については、引き続き運用を続ける

見込まれる効果

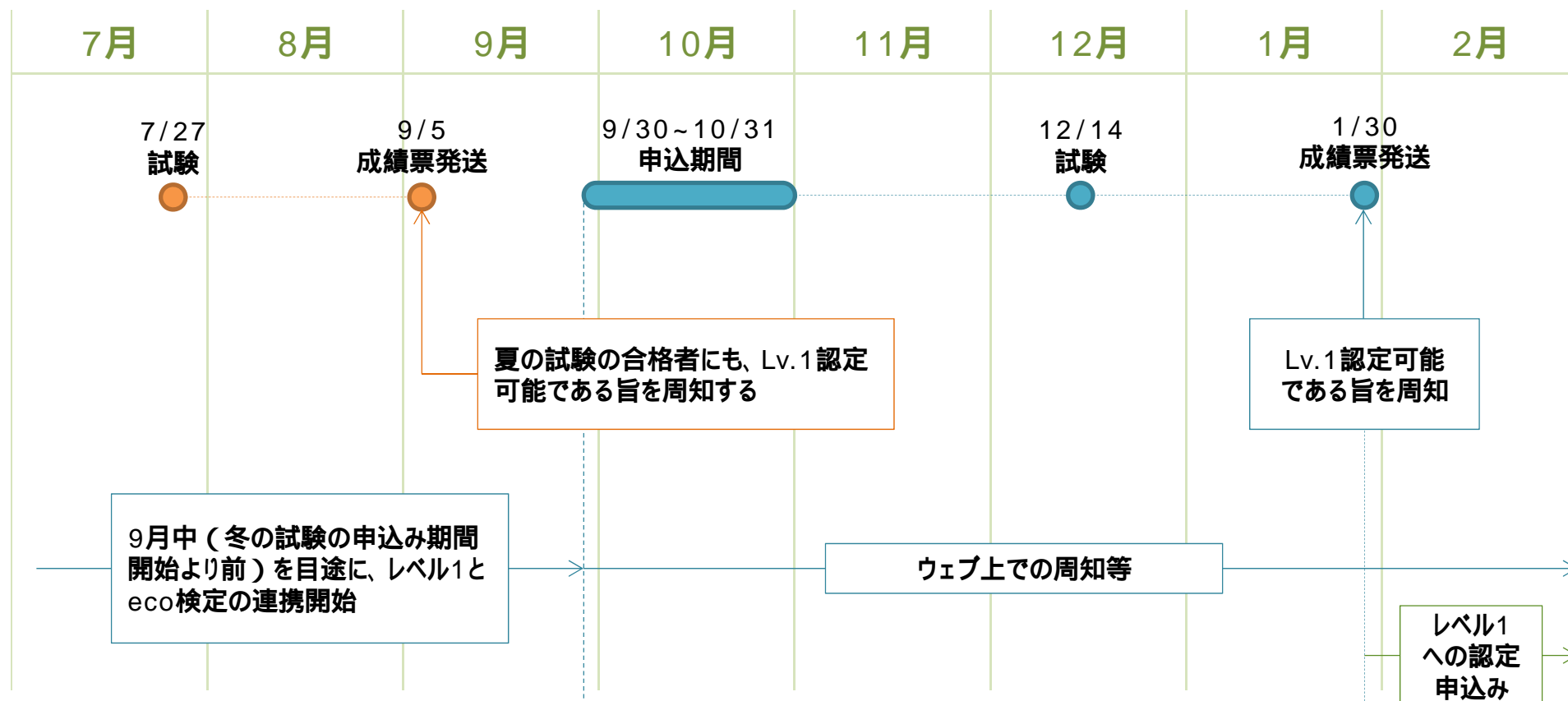
- カーボンマネジャーキャリア段位制度の認知度向上。
- レベル1取得の方法が増えることにより、認定者数が増加。
- レベル1の認定者数増加に伴い、更なるステップアップを目指す方々による、レベル2以上のニーズの掘り起こし。

3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

企業からの声

- eco検定との連携については、特に否定的な意見はなし。
- eco検定との連携等の方向性が固まれば、社内イントラやメールで社員に広報することは可能。

スケジュール (暫定)



3. 今後の取組案 (1) レベル設計について

レベル2

- 現状のレベル2試験は、再エネ・スマコミ等の「その他環境・エネルギー分野」についての問題をほとんどカバーしていないため、追加的に問題を作成していく。
- レベル2で想定する「できる」の力(一定の指示の下に省エネ法の定期報告書を作成する等)を確認するため、試験には、基礎的な実務能力を確認できる演習課題を盛り込む。

※ 現時点では、レベル2と関係付けることが適当な既存資格は見当たらないが、既存資格との関係付けについては、引き続き検討していく。

※ 受験料についても、レベル1をeco検定と関係付けることなどを踏まえ、見直しを検討する。

※ レベル2について、企業からは以下のような声があった。

- eco検定の上級版として、省エネを実務として活かせることを確認できる資格があれば、ニーズがあるのではないか。
- レベル2では、法律部分+LCAなどの企業の付加価値を上げる内容とすると良いのではないかと。公害防止管理者の公害総論と代替ができるようなレベル2もニーズがあるだろう。

トライアル試験の実施

- 上記の、対象分野を拡大した試験は平成27年度から本格実施を予定するが、企業のニーズを反映した問題を中心としたトライアルでの試験を今年度中(12月を目途)に実施する。
- トライアル試験の対象として、環境・エネルギー分野に関心の高いエコピープル(eco検定取得者)にもアプローチをするため、東京商工会議所と連携を進める。受験した方からは、問題の内容やレベルについての意見を募集し、試験内容や運用に向けた課題の抽出を図る。
- トライアル試験を受験し、一定の成績を収めた方には、レベル2の認定を行うことを検討する。

※ レベル3・4については、レベル1とレベル2の運用状況、更なる企業ニーズの把握、を総合的に勘案し、今後、検討を継続する。

3. 今後の取組案 (2) 普及啓発について

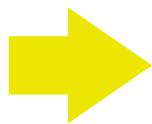
5月に立ち上げた普及啓発アドバイザリーボードにおける各委員の意見などを踏まえ、認知度の向上に向け、普及啓発策を検討・実施していく。

<WEBプロモーション>

- カーボンマネジャーWEBサイトのコンテンツ拡充
 - 有識者、制度の運用・管理者やレベル段位認定者によるインタビューや対談（カーボンマネジャーの狙いや意義について）の掲載
 - サンプル問題等の掲載
- WEBサイト訪問数の増加に向けた対策（リンクの拡充・リターゲティング等の技術の活用）

<その他>

- 新聞・業界紙へのアプローチ（記事・広告の掲載）
- 制度名称の変更（次頁）



今後も適宜、普及啓発アドバイザリーボードの意見などを聞きつつ、より効果的な普及啓発策を検討する。

3. 今後の取組案 (3) 名称について

名称変更検討の背景

- 中身と名称の齟齬
 - 省エネ・GHG削減・環境エネルギーを広くカバーしているが、「カーボンマネジャー」は、CO2削減だけをターゲットにしているように聞こえる
- イメージ喚起力の不足
 - どのような長所を持った人材なのか、直感的には理解しづらい
 - 「カーボン」という言葉から、必ずしも省エネ等を連想できない
- トрендとのずれ
 - 10年前に比べれば、CO2削減の社会的ムーブメントとしての勢いは弱い
 - 現在、勢いがあるのは「スマートコミュニティ」「再エネ」といったワード
(⇔現在のトレンドばかりを追い、数年後にまた改名、とならないよう注意しなければならない)

新名称案 (叩き台)

- エコ・プロフェッショナル
- 環境エネルギーエキスパート
- エネ環マスター
- エコ・マネジャー
- 環境スマート・ストラテジスト
- 環境実務資格認定者
- (変更しない)



WGでの議論と、普及啓発アドバイザーボードでの議論を踏まえ、eco検定との連携開始までには、名称の議論に一定の結論を出す。
(普及啓発アドバイザーボードで議論した結果を、WGへ報告)

4. スケジュール案

